

# 令和5年度 学校自己評価システムシート（県立松伏高等学校）

目指す学校像	学力の定着及び向上と、専門的な技術・能力の伸長を図るとともに、幅広い社会性を身につけさせ、地域に信頼され貢献できる人材を育成する。
--------	---

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 教育課程や学習指導計画及び授業の工夫・改善を進め、学ぶ意欲と学力を向上させる。</li> <li>2 キャリア教育を進め、高い進路意識を育み、進路希望を実現できた生徒の割合を高める。</li> <li>3 生徒会活動や学校行事の質を高め、部活動を活発化させる。</li> <li>4 規律を重んじ、地域に信頼され貢献する教育活動を推進する。</li> </ol>
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。

※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする

出席者	学校関係者	4名
	生徒	2名
	事務局(教職員)	13名

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				年 度 評 価 （ 2 月 1 日 現 在 ）			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策	
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の学習意欲をより高め、学力向上を図っていく必要がある。そのためには生徒の学習習慣の定着、家庭学習時間の増加に引き続き取り組む必要がある。</li> <li>・観点別評価について、昨年度の実施方法を検証し、改善する必要がある。</li> <li>・生徒一人一台端末の導入に伴い、ICTの活用方法について、早急に研究を進め実践を積んでいかなければならない。</li> </ul>	学ぶ習慣と意欲の育成	<ol style="list-style-type: none"> <li>①各教科で予習、復習の指導を粘り強く続け、家庭学習の習慣を身につけさせる。</li> <li>②基礎学力の定着が必要な生徒に基礎学力向上補習を実施する。また教務部と進路指導部の連携で進路補習を実施する。</li> <li>③書籍選定の工夫、図書館の新検索システムの活用等で図書館を更に利用しやすい施設とする。</li> <li>④特別委員会を中心に、各教科で評価方法や課題を検証し、職員全体が共通理解のもとで実施する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①生徒の学習時間が増加したか。</li> <li>②進路補習の講座数、参加者数が増加したか。</li> <li>③本の貸出数や図書館利用が増加したか。</li> <li>④評価の在り方や方法についての共通理解を深め、適切な評価を行えたか。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①平常時に60分以上家庭学習をする生徒は各学年5人未満であった。</li> <li>②夏季休業中に17講座開講し、延べ43名の生徒が参加した。特に音楽科、情報ビジネスコースの生徒が積極的に参加した。</li> <li>③昨年度より貸出数は全体で約200冊減少した。2年生が400冊減少した。</li> <li>④観点別評価について再確認した。各教科の評価規準に差が見られたため、再検討する必要がある。</li> </ol>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の学習面での自己肯定感が低い。成績優良者も多くいる一方で、学習意欲を失っていく生徒も多いことが課題である。学力を付けるのは将来的には大切ではあるが、その前に心を育てないと学力に繋がらない。「Matsubushi Eight Policy」を学習指導に結び付け、生徒の意識を高めていく必要がある。</li> </ul>
		ICTスキルの向上	<ol style="list-style-type: none"> <li>①ICTに係る研修会を引き続き行い、教員のICT活用スキルの更なる向上を進める。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①研修会等で教員のICT活用への意識やスキルの向上が進められたか。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①ICT 推進委員会が中心となって、任意参加の職員研修会を計画的に行った。</li> </ol>	A	
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路指導にきめ細かく取り組み、生徒一人一人の進路希望の実現に尽くしている。生徒には進路実現に向けて考える力を身につけさせ、一人一人に適切な進路指導を行う。</li> </ul>	進学・就職希望に応じた個別指導の充実	<ol style="list-style-type: none"> <li>①進学希望に対応した補習を実施し、模擬試験を活用して、進学指導を行う。</li> <li>②スタディサブリを活用して、進路意識を育てる。</li> <li>③就職希望者に適時な情報を提供するため、ハローワークや民間企業との連携、ICT機器を活用する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①補習内容の充実、補習参加者は増えたか。</li> <li>②活用により、生徒の進路意識は向上したか。</li> <li>③就職希望者の内定率 100%を引き続き達成することができたか。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①指名補習を実施した。1、2年生はスタディサブリを導入し、家庭学習の環境を整えた。</li> <li>②スタディサブリの活用には生徒間、教科間、教員間に差がみられた。</li> <li>③学校幹旋希望者の内定率は100%達成した。</li> </ol>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スタディサブリを導入したが、家庭学習習慣の定着を浸透させられなかった。教科間、教員間で積極的な活用について検討していく。</li> <li>・1年生のときから進路について現実的にしっかり考え、3年間で通して資格取得や進路活動に積極的に取り組める生徒を育てることが必要である。</li> </ul>
		各種検定や高度な資格取得の更なる推進	<ol style="list-style-type: none"> <li>①情報ビジネスコースでの系統的な取組に加え、普通科の生徒にも積極的に資格取得に取り組ませる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①資格取得に取り組む生徒数は増加したか。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①情報ビジネスコースを中心に多くの生徒が検定に合格した。ビジネス文書、ビジネス計算、簿記の検定において1級合格者を複数出すことができた。</li> </ol>	A	
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍でできる限りの学校行事、生徒会行事を実施している。コロナ前に戻しつつ、生徒の主体的な活動を活発化し、教育活動で「Matsubushi Eight Policy(生徒に身につけさせたい力)」を明示することで、職員・生徒が意識的に取り組み、教育効果をさらに高めていく必要がある。</li> </ul>	生徒会を中心とした生徒の主体性の伸長	<ol style="list-style-type: none"> <li>①生徒会の「やりたい」を形にして生徒会活動を活性化させる。</li> <li>②生徒会や委員会等の生徒を中心に、主体性を大切にしながら学校行事を作りあげる。</li> <li>③生徒会を中心に、分校との交流の機会を増やす。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①生徒会本部役員を中心とした自発的な活動が活性化したか。</li> <li>②行事を通して生徒の様々な力を伸長することができたか。</li> <li>③分校との交流機会が増えたか。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①文化祭では、「どうすればお客様を楽しませることができるか」を観点に新企画に挑戦した。満足度8.1/10点(生徒)4.4/5点(来校者)。</li> <li>②コロナ後の行事が始まり、生徒会生徒を中心に一つ一つ見直しを行い、生徒の主体的活動が多く見られた。</li> <li>③分校とは文化祭、体育祭、球技大会等で同時開催をした。また、生徒会交流では花壇整理を毎学期行った。</li> </ol>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会の校外での活動が充実してきたため、行事では生徒による主体的な活動が見られた。次年度は更に計画的に、かつ精選して活動していくことが課題である。</li> <li>・部活動では、入部して続かない生徒がいる。部員数減少で単独チームでの参加ができないというのも一つの要因である。全体的にはしっかり活動しているが、今後は、県立高校と私立高校との格差が広がる中で、何を活動の軸としていくのかを考える必要がある。</li> </ul>
		部活動の活性化	<ol style="list-style-type: none"> <li>①各部活動が活動の様子をHPで情報発信する。</li> <li>②生徒玄関を利用して文化部の発表の場を作り、活動を活性化する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①部活動の活動報告で、HPの活用が進んだか。</li> <li>②文化部の活動成果発表を通じて、活動が活性化したか。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①昨年より多くの部活動が、HPでこまめに発信した。</li> <li>②「入学時より部活動が充実している」という回答が48%であり、運動部、文化部ともに部活動への参加数を増やすことが課題である。</li> </ol>	B	
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・落ち着いた雰囲気の中で教育活動ができてきているのは、きめ細かい礼節・マナーの指導が徹底されているためと考える。今後も集団の中の一人として、自覚と行動する力を身につけさせていく必要がある。また、長年の地域との連携を大切に、今後も本校の教育活動の魅力を発信することで、地域に信頼される学校づくりを推進する。</li> </ul>	規範意識の育成と安全教育の推進	<ol style="list-style-type: none"> <li>①挨拶、マナーの大切さを理解させるために、きめ細かく粘り強く指導する。</li> <li>②交通安全教室の実施やPTAと連携した交通安全指導を実施する。</li> <li>③いじめ等がないか早期発見するために、学校生活アンケートを毎学期実施する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①生徒の挨拶・マナーへの意識は高まったか。</li> <li>②交通事故件数が減少したか。</li> <li>③アンケートの実施から、早期発見と予防が図れたか。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①挨拶をする生徒は多い。しかし近隣からの自転車マナーの苦情は昨年度と変わらない。</li> <li>②交通事故7件と増加した。</li> <li>③アンケートを毎学期実施した。いじめの可能性がある場合には速やかにいじめ問題対策委員会を開き、未然防止に取り組んだ。</li> </ol>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通マナーについては、交通事故を起こす危険性があることを自分事として真剣に捉える指導が必要である。</li> <li>・いじめについては、生徒のコミュニケーション能力不足もその一因と考えられることから、他者を思いやる心を育てることが課題である。</li> <li>・地域交流では部活動を中心に、多世代と関わられるような機会を増やしていく。</li> <li>・HPの発信は生徒募集にも繋がるので、今後も更新の頻度を落とさないように続けていく。</li> </ul>
		地域貢献と情報発信	<ol style="list-style-type: none"> <li>①松伏町を中心に地域との連携を積極的に行い、地域貢献を通じて本校に対する理解を一層深める。</li> <li>②「松高新聞」を定期的に発行し、地域の小中学校等に配布する。</li> <li>③HPの更新回数を増やし、保護者や中学生、地域の方々へ情報を発信する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①松伏町等が推進する事業を通じて地域・保護者との連携を推進できたか。</li> <li>②本校の魅力を広く伝えることができたか。</li> <li>③HPの更新回数や、更新内容を拡大できたか。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①松伏町主催イベントで吹奏楽部が演奏、地域中学校の合唱コンクールで合唱部が演奏、インターアクトのホスト校として生徒会、吹奏楽部、合唱部が参加した。</li> <li>②「松高新聞」を毎月発行し、地域へ配布した。</li> <li>③HPの更新回数は昨年度の2倍以上となった。</li> </ol>	A	

学校関係者評価
実施日 令和6年2月5日
学校関係者からの意見・要望・評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・中高連携が重要である。小中学校ではタブレットを活用して学習の習慣化を図っているが、これをしっかり利用すれば高校につながると思う。</li> <li>・本の貸出数がなぜ減ってしまったのか検証が必要である。タブレットの活用や表彰等でモチベーションアップができると良い。</li> <li>・ICTについては、生徒の吸収スピードは速いと思う。教員もしっかり勉強しなくてはならないので大変である。</li> <li>・中学校の進路指導については、思うような進路活動ができていない。そしてほとんどの生徒は夢がまだ決まっていない。そのため、将来を考えるよりも、まずは進学するものと考えている生徒が多い。高校では、進学後も含めて、自分の意志で職業にたどり着けるための進路指導が重要であると思う。</li> <li>・明るく優しい先輩が多くて楽しい雰囲気なので、学校と生徒に好印象を持っている中学生が多い。</li> <li>・インターアクト交流会では、生徒会は一生涯懸命動いて機転もきいていて、とても素晴らしかった。</li> <li>・部活動では中学3年6月引退後、長く活動しない期間に熱が冷めてしまうのではないかと。たまに練習させるなどして、部活動を続けていきたい気持ちを持って高校に行くこと、その後の活動につながるのではないかと思う。</li> <li>・挨拶がよくできるのに、交通マナーへの苦情があるのは驚きである。ルールはわかっていると思うが、守るには、車の立場を考えられることも重要である。交通マップを作成したりして生徒間で共有・理解できると良い。</li> <li>・松高新聞では、松伏高校の頑張っている姿が良くわかる。</li> <li>・これからも地域と共に、松伏高校のカラーを大切に生徒一人一人の心を更に育ててほしい。</li> </ul>